

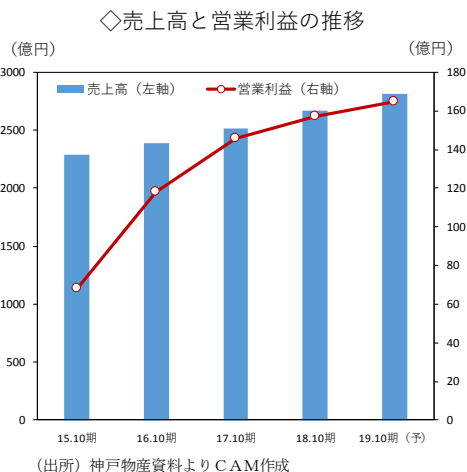
企業ニュース 神戸物産

(東証1部 : 3038) <https://www.kobebussan.co.jp/>

作成者: 荒木晶子

「業務スーパー」を全国展開

1985年設立。食材などの「業務スーパー」をフランチャイズ展開している。店舗数は819店（2019年1月末時点）。中間業者を介さない直接仕入れや、業務・店舗におけるコスト削減などによるローコスト運営が強み。18.10期のセグメント別売上高構成比は、業務スーパー事業88.6%、単体主体の中食・外食事業である神戸クック事業0.6%、子会社の外食事業であるクックイノベーション事業10.3%、メガソーラー発電などのエコ再生エネルギー事業0.4%、その他0.1%。20.10期を最終年度とする中期経営計画では、売上高2,900億円、営業利益170億円、国内業務スーパーの店舗数850店を目指す。出店増と商品力の強化で、収益拡大を図る。



店舗の増加とPB商品強化が貢献し、増収増益

19.10期・第1四半期（11-1月）の連結業績は、売上高が706億円、前年同期比5%増、営業利益が42億円、同11%増。主力の業務スーパー事業は、同6.2%増収。店舗数の増加や他社にはないPB（プライベートブランド）商品の開発などが、認知度向上や新規顧客の獲得につながった。クックイノベーション事業は、居酒屋業態の不振や不採算店舗の閉店が影響し、同8.1%減収となった。売上原価や販管費が増加したが、増収効果で吸収し2桁増益となった。

19.10期の通期会社計画は、売上高が2,819億円、前期比6%増、営業利益が165億円、同5%増。業務スーパー事業の拡大に注力する。期末店舗数は838店を計画しており、出店増による認知度の向上やシェアの拡大を目指す。また、PB商品の開発にも力を入れる。食品工場のM&Aを推進し、国内自社工場でのPB商品の増強を図る。中期経営計画では、PB商品取扱高800億円を掲げており、PB比率の上昇による利益率の向上が期待できよう。

【株価動向・投資判断】

堅調な業績を背景に、株価は上昇している。低価格販売によるシェア拡大やローコストオペレーションによる利益の確保で収益成長が期待できよう。

<3038 神戸物産 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17.10	251,503 (5)	14,606 (23)	15,778 (81)	8,346 (83)	318.5	50.00
18.10	267,175 (6)	15,722 (8)	15,831 (0)	10,363 (24)	390.9	65.00
19.10 予	281,900 (6)	16,500 (5)	16,300 (3)	10,800 (4)	202.3	35.00

(注)18年11月1日付で普通株式1株につき普通株式2株の割合で株式分割を実施。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)

株価(2019/3/25)	3,895 円
昨年来高値(高値日)	4,065 円(19/3/22)
同 安値(安値日)	2,734 円(18/10/30)
予想 P E R (19.10 予)	19.3 倍
1株株主資本(PBR算出用)	650.8 円
P B R	5.99 倍
予想配当利回り	0.90 %
(1株当たり配当金35.00円)	
R O E (18.10)	36.0 %
発行済み株式数	6,840 万株